

枝葉・支流、家庭が源

「枝葉や支流が大切・手間暇を惜しむものにいいものなし」

日本の経済を樹木になぞらえると、中央に幹（首都）があつてそこから枝（地方）が伸びている構造と考えるでしょうが、本当は小枝に付いている葉っぱ（町や村や家庭）が、デンブンを作り、幹を支えているのです。川も多くの支流があります。

葉っぱのしずくや、名もなき湧きから水始まり、淡々と流れて大河となります。

そもそも地方があつて大都會があるのです。末端が基本なのです。

地方を活性化しようと思つてもなかなかうまくいかないのは、枝葉や末端から発想する経済構造自体が外国に破壊されたからです。

山や田んぼが畑が汚染され荒廃すれば、いくら下流で浄化しても海は決してきれいになりません。

硝子コップの水に一滴の水が入ればコップの水は濁ります。環境ホルモン（内分泌かく乱物質）は50倍プールの一杯の水に目薬一滴の量でガンや不妊・生殖機能に影響すると言われるのと同じです。

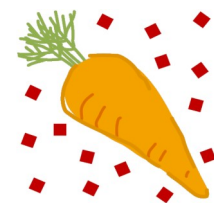
人間の欲が環境を破壊します。悠久の地球生物は宇宙の共有財産です。次世代に渡すためには、植物が病んで人間自体が生きて

いくことが出来ません。

植物の葉脈の広がり、下の根の広がりと同じです。全ては見えないところが見えるところを支えているのです。

日本は耕作面積当たり、世界で一番大量に肥料や農薬、化学物質を使っている国です。

欧米の論理でなく自然の姿を日本の経済に、軌道修正すべきではないでしょうか。



都会に粘菌のゆりかごを守った。日本の森林を保護、神社保護に尽力された「南方熊楠」翁。

有名な

「木村秋則」さんが書いた本に、きゅうりのひげの下りがあります。一部を紹介し

ます。《きゅうりは皆さんの心を見抜くような行動をすることがあります。・・・きゅうりに巻きひげがあります。巻きひ

げの前に指を一本出します。ひげに絡まる人と絡まない人がいます。小さい5・6歳の子供がやると、全員指に絡まります。ところが大人の人がやると、絡まない人が出てきます。まるできゅうりに「この人はあまりに欲が深い人だ」とか、「この人は優しい人だ」と判定されているかのようです。だから決して二人以上でやらず、一人でこっそりやって下さい。・・・」

日本人は戦後、欧米文化の欲望に犯され、日本古来の大切な何かを忘れたようです。いかに批判されても、地球は太陽を回っています

幸せ物質

親の愛情を多く受けた子供の「オキシトシン」量は、母親の愛情を受けずに育つた子どもに比べて高いというデータがあります。つまり「オキシトシン」は母と子の絆に多大な影響を与えているということなのです。

その効果は母と子だけではなく、夫婦・恋人同士あるいは親友同士の結びつきにも密接に関連していると言われています。つまり

「オキシトシン」は、人間量が高くなります。

関係を円滑にし、他人との心理的境界を健全に保つ能力に関係があるだけでなく、緊迫した状況でのストレス

与え、心理的・精神的な感情を反映する可能性が期待されています。つまり人と動物が触

を軽減させる働きがあることも報告されています。人が動物の目を見つめ体をやさしくすることで人間の体内の「オキシトシン」

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計

事務所便り
2009年11月19日 (木) N078
地域から明るい未来を作ろう